

生徒講評文

8月 5日 2校目	大垣商業 高等学校
グッドラック (既成・ 創作)	
<p>テーマは、劇中でも言われているように「恐れず積極的に」だと思った。脚本の内容は、高校生によくある就職など進路の悩みが題材となっていて共感しやすかった。商業高校の特色を、演劇的に面白おかしく描いていたため、大変楽しんで見る事ができた。大人は肩書や実績にこだわり、子どもは感情的に自己主張をすることで、大人と子どもの考え方の違いが対比される。主要人物五人の悩みと願いが、垂れ幕作りを通して形になっていく様子が、わかりやすく描かれていた。ラストシーンについては、大人の価値観に屈したという解釈と、彼らの成長を描いているという解釈があった。垂れ幕に書いてある「グッドラック」ということばの意味は、「幸運を祈る」ということだけであり、彼女たちの人生が前途洋々たるものであることを表したわけでは決してないところが皮肉めいている。</p> <p>キャストは方言を用いており面白く、声もしっかりと響いており、また、息の合ったキレのあるダンスも出来ていた。多人数で舞台に整列した際にはキャストが重ならないような工夫がされていた。場を繋ぐアドリブで観客を引き付けていた。</p> <p>音響はダンスが終わったのと同時に止まるなど、タイミングが合っており、豊富な練習量がうかがえた。照明では、単サスに前明かりをあえてつけないことで表情が見えなくなり、主人公たちの悩みを表現していた。</p> <p>舞台装置は立体的になっており、舞台を広々と使っていた。引き割り幕をせめることで、場転がスムーズに出来ていた。しかし、最後の垂れ幕が求人票と被ったり、スモークを焚いたことで見づらくなったことが残念だった。</p> <p>大垣商業高校の皆さん、お疲れさまでした。</p>	
大垣東高校 稲川浩希	

